

黙示録 11 章 1 節-2 節 スタディーガイド

第二のわざわいが過ぎ去ってから、第三のわざわいの来る前に、別の話が入っています。

- ・ 10 章では、七つの雷と巻物の預言。
- ・ 11 章では、神殿の測りと二人の証人について。
- ・ 12 章では、イスラエルの民が荒野に逃亡すること。
- ・ 13 章では、反キリストについて。
- ・ 14 章では、神に従う者への勝利の励ましと、悪の敗北など。

神殿を測っている 11 章のみことばについて、いろいろな解釈があります。

神学者の中には、この神殿はイエス様の時代の第二神殿だと理解している人々がいます。

黙示録では、神殿が破壊され、ユダヤ人がお国をなくしてから書かれている歴史の背景を忘れてはいけないと思います。

ディスペンセーション神学者の中には、この神殿を比喩的に理解し、教会の信者に当てはめ「そこで礼拝している人を測れ」という、信仰の強弱が測られていると解釈している人もいます。

また、別のディスペンセーション神学者の中には、みことばをそのまま受け止めて、未来にユダヤ人の神殿がエルサレムに再建されることを信じている人もいます。

オメガ・バイブルスタディーの黙示録の学びでは、聖書のみことばをそのまま実在することとして受け止め、学んでいます。

★ 黙示録 11 章 1 節-2 節

それから、私に杖のような測りざおが与えられた。すると、こう言う者があった。「立って、神の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。測ってはいけない。彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みにじる。

1 節 「私に杖のような測りざおが与えられた。すると、こう言う者があった。『立って、神

の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。』」

ヨハネ自身が測りざおを持って測る役割が与えられ、御使いがそれを眺めているという、今までにはない行動が起こっています。

1 節「神の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。」

神殿の聖所と祭壇のある、神殿の内庭を表しています。

2 節「聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。測ってはいけません。」

聖所の外の庭のことを言っていますから、1 節で測っている神殿は、教会の信者のことではなく、神殿の内庭のことであると考えます。

ソロモンが建てた第一神殿も、バビロン捕囚から戻った後に再建された第二神殿も、また、ヘロデ大王が改造したイエス様の時代の神殿も、外の庭は異邦人に与えられていませんでした。

ゆえに、この神殿は第一神殿でも第二神殿でもありません。未来に建てられる神殿であると考えざるを得ないのです。

2 節「彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みにじる。」

異邦人が 3 年半、第三神殿を踏み付けて散々にするという預言です。

ダニエル書 9 章 27 節「彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる」

これは、未来に現れる反キリストが、7 年の堅い契約をイスラエル政府と結ぶことが考えられるとお話ししました。

しかし、中間である 3 年半の後、いけにえとささげ物をやめさせることが預言されています。このダニエル書の預言によりますと、実在する神殿がなければならないこととなります。現在、神殿の丘は異邦人のものとなっています。

未来に、神殿の丘の一部にユダヤ人の神殿が建てられると考えられます。なぜなら「聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ」と言っていますから、全神殿の丘がユダヤ人のものとはならないことが理解できます。

この神殿は、神様によって建てられるのではなく、「荒らす忌むべき者」である反キリストの助けによって建てられる神殿です。

至聖所？

長年、イスラム教の岩のドームが建っている所が、神殿の至聖所だと言われていました。

約 1300 年前に建てられた有名な岩のドームは、イスラム教にとってあまりにも大切な所で

すから、そこにユダヤ人の神殿を建てるとなると、あのドームを破壊しなければなりません。

そのようなことが起これば、全世界のイスラム教徒たちが立ち上がり、世界大戦になるほどの争いが起こるでしょう。岩のドームを破壊しなければならないのなら、恐らく神殿の建つことは不可能であると考えられます。

2千年前の神殿の遺跡がたくさん残っており、ユダヤ人考古学者たちがいろいろと調べています。

その調査によりますと、岩のドームがある所は神殿があった所の南側で、神殿はドームの北側にあったのではないかと考える考古学者たちが多くいます。

もし、ドームの北側が神殿のあった所なら、神殿を建てる場所が空いていることになります。

第三神殿に対する予想

恐らく「荒らす忌むべき者」と呼ばれている反キリストが、ユダヤ人が神殿の丘に入る許可と発掘許可を出す権利を手に入れるのではないかと考えられます。

ユダヤ人は、神殿の至聖所がどこにあったのかが分からなければ神殿を建てることはしません。

ユダヤ人が神殿の丘に入ることができるようになり、発掘が始まったら、イエス・キリストのご再臨は戸口まで来ていると考えられます。

★ テサロニケ人への手紙 第二 2章3節 - 4節

だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

3節「だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。」

反キリストが現れなければご再臨はないから「誰にもだまされないように」と言っているのです。


ご再臨が来年あるとか、すでに大患難時代に入っていると言う人々がいても耳を貸さないようにしましょう。

4節「彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し」

人々の信仰の自由を取り上げる人物だと考えられます。

4節「その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。」

7年の契約を一方向的に破棄し、神殿の中に座り込み「自分が生ける神だから、いけにえとささげ物を私に与えるように」と言うような状況が預言されています。

 **テサロニケ人への手紙 第二 2章8節**

その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。

反キリストが現れますが、主はご再臨の輝きによって、彼を滅ぼされます。つまり、反キリストの現れることが、ご再臨と関連しているということです。

◆MEMO◆